

話し手の性別・年齢を反映する文生成システム

金子 和恵 八木沢 津義 藤田 稔

キャノン(株) 情報メディア研究所
〒211 神奈川県川崎市幸区鹿島田 890-12
Tel: (044)549-5111

あらまし: 本稿では、文の表現の多様さの一つとして、話し手の性別や年齢に着目する。意味ネットワークに話し手の性別や年齢や丁寧さなどの待遇情報を付与し、それに合わせた語彙の置換や選択を行い、話し手に合った自然な文を生成する。自立語の語彙は、位相語や尊敬語、丁寧語、謙譲語、俗語といったバリエーションを使って置換を行い、機能語の語彙は連語を含む3千語の辞書の中から、意味ネットワークの記述に合うものを検索して組み合わせる。

これを検証するシステムとして、音声合成と顔のアニメーションを使って、少年、青年(女性)、青年(男性)、老人(男性)の4種類のキャラクターで文章を言い換えるシステムを作成し、ある程度の自然な文が生成できることを確認した。

キーワード: 文生成, 位相語, 待遇表現

A sentence generator which reflects the teller's gender and generation

Kazue KANEKO, Tsuyoshi YAGISAWA and Minoru FUJITA

Media Technology Laboratory, Canon Inc.
890-12, Kashimada, Saiwai-ku, Kawasaki-shi, Kanagawa, 211, Japan
Phone: +81-44-549-5111

Abstract: This paper presents a sentence generator based on semantic networks, which generates Japanese expressions reflecting the teller's characteristics. We give additional information such as gender, generation, honorific state to the semantic networks. Sentences are generated by selecting and exchanging words under the condition of the semantic networks. Independent words are exchanged using variations of honorific, slang or jargon, etc. Particles are selected from a 3,000 vocabulary size dictionary and then combined.

Evaluation was performed using four characters (a boy, a young lady, a young man and an old man) using a system with facial animation and text-to-speech. The system rephrases general sentences into characterized sentences of each. The evaluation proved to generate relatively natural sentences reflecting the teller's characteristics.

key words: Sentence Generation, Social Dialect, Honorific Expression

1 はじめに

文章の生成技術は、伝達内容や論理の組み立てを決定する what to say のレベルと、文構成を決定し構文や形態素を生成する how to say のレベルに大別される。what to say のレベルではドメインに依存する部分が大きく、生成する文章の内容に関する知識を利用する研究 [1] がある。how to say のレベルでは、ユーザモデルを使って既知の部分について省略したり [2]、話し手と聞き手の上下関係などから待遇表現を生成したり [3] と対象世界のモデルを利用する研究がある。また、文の読みやすさという評価基準から生成戦略を制御するもの [3] [4] もある。

本研究は、言語知識だけを利用し、対象知識や対象世界モデルを用いない¹という点で、初歩的な how to say レベルの文生成である。ただし、語彙数は自立語 10 万語、機能語 3 千語とし、意味ネットワークの記述能力を高めることで、多様な表現の文を生成できる汎用的な文生成を目指す。本報告では、表現の多様性の一つとして、話し手の年齢や性別を取り上げる。意味ネットワークに、話し手の年齢や性別などの情報や丁寧さなどの待遇や確信度などのムードを付与して語彙の選択を行い、表層文を生成する。また、文の読みやすさという評価基準は設けないが、話し手を想定することで文の中での表現の一貫性を図ることができる。

これを検証するシステムとして、音声合成と顔のアニメーションを使って、少年、青年（女性）、青年（男性）、老人（男性）の 4 種類のキャラクターで、文章を言い換えるシステムを作成した。今後検討すべき点は多いが、ある程度の自然な文が生成できることを確認した。

2 文生成の構成

本システムでは、文生成は、図 1 にあるような意味ネットワークを入力とし、表層文を出力とする。この意味ネットワークは、文献 [5] で紹介した意味・文脈解析の結果得られるものであり、用言を格関係 (1)、ボイス (2)、テンス・アスペクト (3)、主題 (4)、ムード (5) の 5 つのレベルの階層に分けることを特徴としている。

これから表層文を生成することは、文を言い換えることになる。処理の手順は次の通りである。

1. 意味ネットワークの変換

話し手を付与し、待遇表現やムード表現を変更する。

¹対象知識やモデルを使った戦略は、一段上のモジュールとして位置付けており、この文生成システムの応用として検討すべき問題であると考えている。

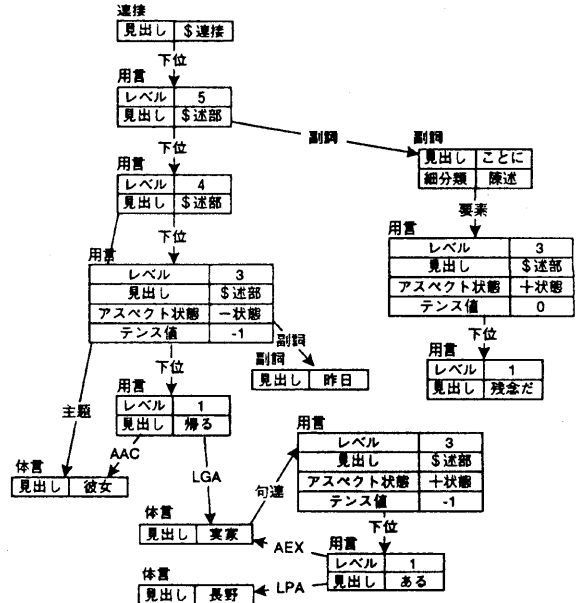


図 1 「残念なことに、昨日彼女は長野にある実家に帰った。」の意味ネットワーク

2. 自立語語彙置換

話し手や待遇に合せた自立語の置き換えを行う。

3. 機能語語彙検索

ボイス、テンス・アスペクト、ムード、待遇に合せた機能語の検索を行い、候補を作成する。

4. 句の生成

句を生成し、用言の 5 階層モデルや結合価パターンを用いて句の順序を決定する。

5. 形態素の生成

形態素の並びを決定し、候補の中から接続条件や話し手によって機能語を選択し、話し手に合せた表記を生成する。

2.1 意味ネットワークの変換

意味ネットワークに、話し手の情報と、丁寧さなどの待遇表現と、話し手の確信度などのムード情報を新たに付与する。

2.1.1 話し手

文の生成時に想定する話し手としては、「子供」「女性」「男性」「老人」の 4 種類を用意する。

「子供」にも「男の子」と「女の子」があり、「老人」にも「老爺」と「老婆」があるのだから、あまり適切な分け方とは言えないが、辞書の記述には、

位相語の種類として幼児語、女性語、老人語などを使うことがあることから、そちらの観点の分類に従うことにした。

2.1.2 待遇表現

待遇表現は、次の3つの側面から見た値を組み合わせて作成する。

待遇等：尊敬、謙譲、丁寧、卑罵、なしの5値
 丁寧度：丁寧、普通、なし、ぞんざいの4値
 態度等：改まり、くだけ、粗野、尊大、なしの5値

組み合わせの例を表1に示す。

表1 待遇表現組み合わせ例

待遇等	丁寧度	態度等	例
謙譲	丁寧	改まり	御案内いたします。
尊敬	丁寧	改まり	お召し上がり下さい。
丁寧	丁寧	改まり	連絡していただけないでしょうか。
丁寧	普通	なし	実験室に転送します。
丁寧	普通	くだけ	邪魔しちゃうけません。
丁寧	普通	くだけ	彼はすぐに来ますよ。
丁寧	普通	尊大	連絡していただけるか。
丁寧	普通	粗野	兄貴に電話がありましたぜ。
なし	なし	なし	彼はすぐに来る。
なし	なし	くだけ	すぐに来るよ。
なし	ぞんざい	粗野	食え。

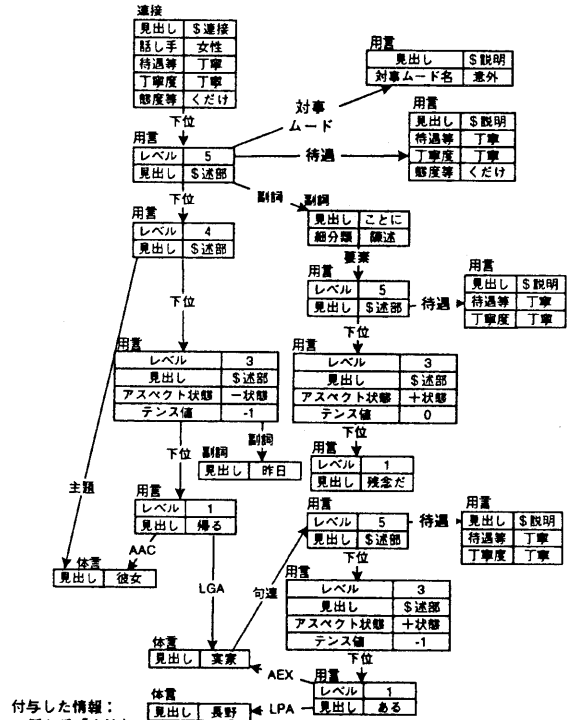
文献[3]では、話し手、聞き手、文中の登場人物の上下関係や親疎関係などのファクターで待遇表現の使い分けを行っているが、本研究では、対象世界モデルを持たないために、文中に登場する人物との関係は記述できない。これは今後の課題とし、聞き手に対する話し手の待遇を文中に登場する人物に対しても適用する。

2.1.3 ムード表現

話し手の確信度などを示すムード情報(対事ムードと呼ぶ)には、次のものがある。

推量、疑念、伝聞、帰結、意外、反実仮想、失敗、驚嘆、回想、披瀝、既定、当然、義務、禁止、為当、許可、推奨、不必要、不可避、過剰、相応、不足

図2は、図1の意味ネットワークに、話し手「女性」、待遇等「丁寧」丁寧度「丁寧」態度等「くだけ」と対事ムード「意外」の意味ネットワークの変更を加えたものである。話し手や待遇や対事ムードの変更は主用言の階層に対して行うが、丁寧度が「丁寧」の場合のみ丁寧度は従属節にまで及び、「ある」「残念だ」などの用言の階層に待遇を示すノードが付与される。



付与した情報：
 話し手「女性」
 待遇名「丁寧」丁寧度「丁寧」態度等「くだけ」
 対事ムード「意外」

図2 変更された意味ネットワーク

2.2 自立語彙選択

話し手や待遇表現に合せて、位相語となる自立語の置き換えを行う。このため、自立語辞書には、[丁寧語][尊敬語][謙譲語][俗語等]などの語のバリエーションの記述と、[話し手][待遇等][丁寧度][態度等]などの語の位相情報の記述を行った。

図2の例の「彼女」「ある」「実家」については、次のような辞書記述が為されている。

- [見出し] 彼女 [見出し] ある [見出し] 実家
- [俗語等] あれ、あいつ [丁寧語] ございます [丁寧語] お里
- [俗語等] 親里
- [見出し] あれ [見出し] あいつ [見出し] ございます
- [態度等] 尊大 [丁寧度] ぞんざい [待遇等] 丁寧
- [基準語] 彼、彼女 [態度等] 粗野 [丁寧度] 丁寧
- [基準語] 彼、彼女 [基準語] ある
- [見出し] お里 [見出し] 親里
- [待遇等] 丁寧 [話し手] 老人
- [丁寧度] 普通 [基準語] 実家
- [態度等] くだけ
- [基準語] 実家

「彼女」は、態度等「尊大」の場合は「あれ」に、丁寧度「ぞんざい」態度等「粗野」の場合は「あい

つ」に置き換えられる。「ある」は、待遇等「丁寧」丁寧度「丁寧」の場合は「ございます」に置き換えられる。また「実家」は、待遇等「丁寧」態度等「くだけ」の時は「お里」に、話し手「老人」の場合は「親里」に置き換えられる。

図2の例のように、話し手「女性」待遇等「丁寧」丁寧度「丁寧」態度等「くだけ」が与えられている場合、「ある」は「ございます」に、「実家」は「お里」に置き換えられる。

2.3 機能語語彙検索

意味ネットワークでは、助詞などの機能語の語彙は保持せず²、表層文の生成時にその表現を作成する。副助詞や並立助詞は一律に、格助詞は結合価パターンを作って一意に割り当てた文字列を生成するが、接続助詞・助動詞・終助詞は、意味ネットワークの記述から辞書を検索して候補を取り出す。

本研究では、[6]を参考とし、組み合わせにより新しく意味が発生するものもあるという観点から、連語としての機能語を認め、それらの意味する意味分類、ボイス、テンス、アスペクト、伝達モード、対事モード、待遇などの情報をすべて付与して辞書に登録している。必要な条件の組み合わせからこの辞書を検索し、機能語を求める。条件を全て満たす機能語がない場合には、検索の条件から一つを外して候補を取り出す。外された条件でも別に候補を取り出し、先の候補と組み合わせることで、満足する表現を求める。

2.3.1 接続助詞

接続助詞による従属節は、意味ネットワーク上では、形式副詞による副詞節となっている。次に示す形式副詞の細分類名と待遇などの情報から接続助詞の候補を取り出す。

様態、結果、場所、数量、態度、手段、目的、理由、解説、継起、期間重複、同時、遡及、反復、頻度、主題化、強調、否定的強調、視点、関連、除外、換言、前置き、補充、例示、累加、数量限定、陳述、由来、仮定、逆接仮定、選言仮定、対比、連接、順接、逆接、逆接条件、選択、並列、転換

図2の例の、レベル5の副詞節は、「残念なことに」という部分にあたる。これは陳述の副詞節を形成している。まず、細分類「陳述」で、待遇等「丁寧」丁寧度「丁寧」態度等「くだけ」の接続助詞を検索するが、該当するものがない。待遇等「丁寧」丁寧度「丁寧」を条件からはずし、細分類「陳述」で態

²図1、図2の意味ネットワークには形式副詞の「ことに」があるが、これは見出しとしてあるだけで、表層文の生成には利用されない。

度等「くだけ」の接続助詞を検索し、「けれど」「けど」「けども」「けれど」を機能語の候補とする。

はずした待遇等「丁寧」丁寧度「丁寧」の条件は、「残念だ」という用言の助動詞として実現可能なので接続助詞としては実現しない。

2.3.2 助動詞、終助詞

助動詞や終助詞で表現する情報は、ボイス、テンス、アスペクト、伝達モード、対事モード、待遇がある。これらの組み合わせから、機能語を検索し助動詞や終助詞の候補を取り出す。

例えば、「帰る」という主用言に対しては、対事モードとして「意外」、待遇として待遇等「丁寧」丁寧度「丁寧」態度等「くだけ」、テンスとしては過去を示すテンス値「-1」の情報が付与されている。しかし、これらの組み合わせを示す助動詞はないので、次の助動詞や助詞を組み合わせで候補とする。

表2 助動詞の候補例

項目	値	助動詞
対事モード	意外	てしまう、でしまう
待遇等	丁寧	です、ます
態度等	くだけ	よ、わ
テンス値	-1	た、だ

「残念だ」という用言に対しは、テンス値「0」でアスペクト状態が「+状態」と現在を示すので、テンスを示す助動詞の検索は行わない。丁寧を示す助動詞の検索を行い、「です」「ます」を候補とする。

「ある」という用言は、テンス値「-1」だがアスペクト状態が「+状態」であり継続性が認められるため、過去を示す助動詞の検索は行わない。また、動詞の「ある」が丁寧語の「ございます」に置き換えられているため、丁寧を示す助動詞の検索も行わない。

2.4 句の生成

自立語一つに対して句を一つ生成する。従属節や副詞は、意味ネットワークの用言の階層の上位にあるものから先に生成する。必須格は格パターンに記述されている順に並べる。

図2の意味ネットワークでは、まず、主用言「帰る」の階層に着目し、レベル5の用言の副詞の「残念だ」、レベル4の用言の主題「彼女」、レベル3の用言の副詞「昨日」、レベル1の用言のLGA(行き先格)「実家」、レベル1の用言「帰る」といった自立語に対し、順に句を生成する。また、「実家」という句に対しては、レベル1の用言のLPA(場所格)「長野」、レベル1の用言「ある」という自立語に対し句を生成し、「実家」の句の前に置く。

このような順で作成した句の構造は、図3のようになる。

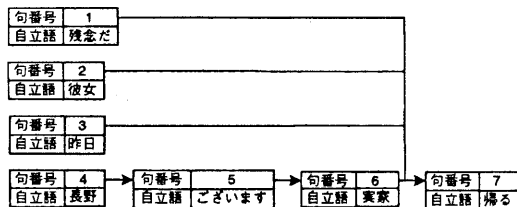


図3 句の構造

2.5 形態素の生成

句の順序が決まったものについて、自立語に続く機能語の選択と、表記の作成などを行う。

2.6 機能語の選択

助動詞や終助詞の機能語の組み合わせで、テンスやムードや待遇などを表現する場合、用言の階層と幾つかのヒューリスティックスで機能語の順序を決定する。

順番を決定すると共に、機能語検索で取り出された機能語候補から、話し手の設定と形態素の接続条件を満たすものを選択する。

話し手が「女性」の場合、図2の例から検索された表2の機能語の候補は表3のように絞りこまれる。

表3 機能語の選択例

項目	値	助動詞
対事ムード	意外	てしまう
待遇等	丁寧	ます
態度等	くだけ	わ
テンス値	-1	た

2.6.1 表記の選択

話し手と待遇表現の違いにより、漢字の表記や仮名の表記の切り換えを行う。

使うことのできる表記は、見出し語、異表記、読み（ひらがなもしくはカタカナ）の3種類である。このうち、見出し語と異表記には、どの表記がよく使われるか、(a),(b),(c)の3段階の重要度のランク付けを与えている。例えば、「森」については、「杜」と「もり」の異表記があり、これらの表記の重要度は「森(a)」「杜(b)」「もり(c)」となる。

表記は、表記重要度と漢字の種類から、話し手と待遇表現の態度の違いにより、表4のように選択する。

表4 表記の選択

話し手	態度	選択される表記(右から先に選択)
なし	—	常用漢字(a), 表記(a), 見出し
子供	くだけ/粗野	仮名(a/b), 教育漢字(a), 読み 教育漢字(a), 読み
老人	—	画数の多い漢字, 表記(a), 見出し
男性・女性	くだけ/粗野 改まり	教育漢字(a), 常用漢字(a), 見出し 表記(a), 見出し
	—	常用漢字(a), 表記(a), 見出し

2.6.2 読点の挿入

副詞節や主題の後に読点を挿入し、態度が「くだけ」や「粗野」の場合には、副詞句の後も読点を挿入するという措置を行っている。話し手によって挿入箇所を変えたり、句の長さなどを考慮するなどの措置は検討課題である。

2.6.3 表層文の生成

こうして生成された形態素の活用語の活用語尾を整えて、図4のような形態素列を生成し表層文を生成する。

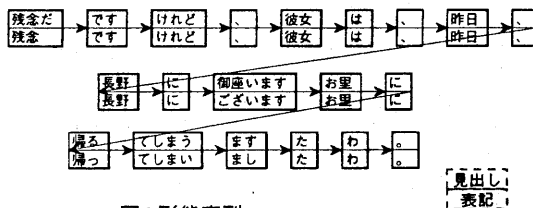


図4 形態素列

図2の意味ネットワークから生成される文と、話し手や待遇を変えて生成した文の例を次に示す。

話し手: 待遇等: 丁寧度: 態度: 対事ムード

女性: 丁寧: 丁寧: くだけ: 意外
「残念ですけど、彼女は、昨日、長野にございますお里に帰ってしまいましたわ。」

少年: なし: なし: くだけ: 意外
「残念だけど、彼女は、きのう、長野にある実家に帰っちゃったよ。」

男性: なし: ぞんざい: 粗野: 意外
「残念だけど、あいつは、昨日、長野にある実家に帰ってしまったぜ。」

老人: なし: なし: 尊大: 意外
「残念な事に、あれは、昨日長野に在る親里に帰ってしまった。」

3 検証システム

検証システムとして、音声合成と顔のアニメーションを使って、少年、青年（女性）、青年（男性）、老人（男性）の4名のキャラクターで、文章を言い換えて喋るシステムを作成した。これは、もとの文章に意味・文脈解析を行って省略された格の補完などを行い、文章の意味ネットワークから、一文ごとの意味ネットワークを取り出して文生成を行い、表層文から音声合成と発声している顔のアニメーションを行うものである。

図5がその実行の画面である。

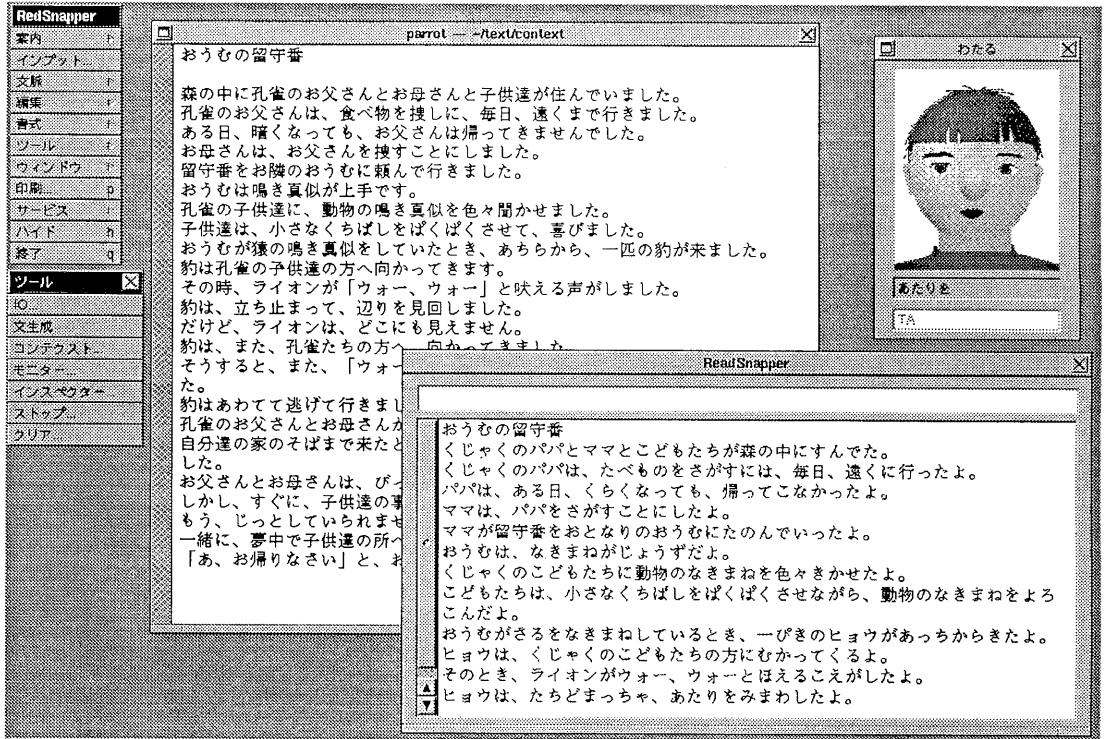


図5 検証システム実行例

左上のウィンドウがもとの文章³を表示したものの、右下のウィンドウが言い換えた文章を表示している途中のものである。

右上の顔は、発声中の音に合わせて唇を動かす。この画面では、「ヒョウは、たちどまっちゃ、あたりをみまわしたよ」という文の「あたりを」の「TA」の音を発声しているところである。

文生成は、話し手「子供」とし、待遇「なし」、丁寧度「なし」、態度「くだけ」として行っている。言い換えによって生成される文は、もとの文の丁寧表現は削除され、「くだけ」の態度を示す終助詞の「よ」が付与され、幾つかの自立語や接続助詞の置き換えが行われている。

この例にあるような、複文などを含む表現も、ある程度自然な文に言い換えることができる。

なお、言い換えの原文と、言い換えた文章の例を付録につける。

4 今後の課題

今後の課題としては、次の点があげられる。

- 機能語の充実
機能語のバリエーションが3千語ではまだ不十分である。会話体の表現について充実を図りたい。
- 概念レベルでの言い換え
語彙の言い換えは、尊敬語、謙譲語、丁寧語、俗語などに限定している。同義語や慣用句などを使った言い換えを行うよう、概念辞書の利用を検討する。
- 待遇表現の部分適用
待遇表現の変更は文単位に行っているが、本来は、聞き手や文中の動作主など個別に付与されるべきものである。対象モデルの適用と合せて検討する。
- ボイスや語順の決定や、既出の語の省略
ボイスや語順の決定には、視点を管理するモデルが、既出の語の省略は、同一性を管理するモデルが必要である。

謝辞

音声合成モジュールを利用して下さった同僚の麻生隆氏と大塚充氏に深く感謝します。

³小学校2年生用の教材文([7]から引用)に、かなを漢字に直すなどの修正を加えたもの。

参考文献

- [1] 内田ユリ子, 石崎俊, 井佐原均: 実際の知識に基づく文脈表現構造からの英語テキスト生成, 電子情報通信学会論文誌 D-II Vol. J72-D-II No. 9, 1989
- [2] 垣内隆志, 榎本英治, 上原邦昭, 豊田順一: ユーザモデルを利用した説明文生成プランニング, 人工知能学会誌 Vol. 4 No. 2, 1989
- [3] 甲斐郷子, 吉村雅子, 中村順一, 吉田将: 親疎関係を考慮した待遇表現生成システムの構築, 信学技法 NLC92-56, 1993
- [3] 柴田昇吾, 藤田稔, 柵木孝一: 読みやすさを考慮した文生成, 情報処理学会第 4 1 回全国大会, pp. 3:177-3:178, 1990.
- [4] 乾健太郎, 徳永健伸, 田中穂積: 文章生成における推敲の役割, 情報処理学会 自然言語処理 83-7, 1991.
- [5] 金子和恵, 八木沢津義, 藤田稔: 文章理解のための意味・文脈解析の試み, 情報処理学会 自然言語処理 108-17, 1995.
- [6] 森田良行, 松木正恵: 日本語表現文型, アルク, 1989.
- [7] 永野賢: 文章論総説, 朝倉書店, 1986.
- [8] 菊地康人: 敬語, 角川書店, 1994
- [9] 奥山益朗: 正しいようで正しくない敬語, 講談社, 1994

付録

原文:

おうむの留守番
森の中に孔雀のお父さんとお母さんと子供達が住んでいました。
孔雀のお父さんは、食べ物を捜しに、毎日、遠くまで行きました。
ある日、暗くなっても、お父さんは帰ってきませんでした。
お母さんは、お父さんを捜すことにしました。
留守番をお隣のおうむに頼んで行きました。
おうむは鳴き真似が上手です。
孔雀の子供達に、動物の鳴き真似を色々聞かせました。
子供達は、小さなくちばしをばくばくさせて、喜びました。
おうむが猿の鳴き真似をしていたとき、あちらから、一匹の豹が来ました。
豹は孔雀の子供達の方へ向かってきます。
その時、ライオンが「ウォー、ウォー」と吠える声がありました。
豹は、立ち止まって、辺りを見回しました。
だけど、ライオンは、どこにも見えません。
豹は、また、孔雀たちの方へ、向かってきました。
そうすると、また、「ウォー、ウォー、ウォー」と、ライオンの声がありました。
豹はあわてて逃げて行きました。
孔雀のお父さんとお母さんが、一緒に帰ってきました。
自分達の家のそばまで来たとき、「ウォー、ウォー」と、ライオンの声がありました。
お父さんとお母さんは、びっくりして、木の陰に隠れました。
しかし、すぐに、子供達の事が心配になりました。
もう、じっとしてはいられません。
一緒に、夢中で子供達の所へ走って行きました。
「あ、お帰りなさい」と、おうむが木の陰から首を出して言いました。

言い換え:

話し手「子供」待遇等「なし」丁寧度「なし」態度「くだけ」

おうむの留守番

くじゃくのパパとママと子どもたちが森の中にすんでた。
くじゃくのパパは、たべものをさがすには、毎日、遠くに行つたよ。

パパは、ある日、くらくらなくても、帰ってこなかったよ。

ママは、パパをさがすことにしたよ。

ママが留守番をおとなりのおうむにたのんでいったよ。

おうむは、なまなまねがじょうずだよ。

くじゃくの子どもたちに動物のなまなまねを色々聞かせたよ。
子どもたちは、小さなくちばしをばくばくさせながら、動物のなまなまねをよろこんだよ。

おうむがさるをなまなまねしているとき、一びきのヒョウがあちらからきたよ。

ヒョウは、くじゃくの子どもたちの方にむかってくるよ。

そのとき、ライオンがウォー、ウォーとほえるこえがしたよ。

ヒョウは、たちどまっちゃ、あたりをみまわしたよ。

だけど、ライオンは、どこにもこないよ。

また、ヒョウは、くじゃくたちの方にむかっていたよ。

また、すると、ライオンのこえがウォー、ウォー、ウォーとしたよ。

ヒョウは、ライオンのこえにあわてて、にげていったよ。

くじゃくのパパとママが一緒に帰ってきたよ。

くじゃくのパパとママが自分たちの家のそばにきたとき、ウォー、ウォーとライオンのこえがしたよ。

パパとママは、びっくりして、木の陰にかくれたよ。

だけど、パパとママに子どもたちのことがすぐ心配になったよ。

もう、パパとママがじっとすることもできないよ。

夢中で、パパとママと一緒に子どもたちのとこへはしっていったよ。

木の陰からおうむがくびを出しちゃ、あのね、おかえりと言ったよ。

言い換え:

話し手「女性」待遇等「丁寧」丁寧度「普通」態度「なし」

オウムの留守番

クジャクのお父さんとお母さんと子供達が森の中に住んでいました。

クジャクのお父さんは、食べ物を捜すには、毎日遠くに行きました。

お父さんは、ある日暗くなっても、帰ってきませんでした。

お母さんは、お父さんを捜すことにしました。

お母さんが留守番をお隣のオウムに頼んでいきました。

オウムは、鳴き真似が上手です。

クジャクの子供達に動物の鳴き真似を色々聞かせました。

子供達は、小さなくちばしをばくばくさせながら、動物の鳴き真似を喜びました。

オウムが猿を鳴き真似している時、一匹のヒョウがあちらから来ました。

ヒョウは、クジャクの子供達の方に向かってきます。

その時ライオンがウォー、ウォーとほえる声がありました。

ヒョウは、立止って、辺りを見回しました。

ですがライオンは、どちらにも来ません。

又ヒョウは、クジャクたちの方に向かっていました。

又そうするとライオンの声ウォー、ウォー、ウォーとしました。

ヒョウは、ライオンの声に慌てて、逃げていきました。

クジャクのお父さんとお母さんが一緒に帰ってきました。

クジャクのお父さんとお母さんが自分達の家の傍に来た時、

ウォー、ウォーとライオンの声がありました。
お父さんとお母さんは、びっくりして、木の陰に隠れました。
ですがお父さんとお母さんに子供達の事がすぐ心配になりました。
もうお父さんとお母さんがじっとすることもできません。
夢中でお父さんとお母さんが一緒に子供達の所へ走っていき
ました。
木の陰からオウムが首を出して、あのね、お帰りなさいと言
いました。

言い換え：

話し手「男性」待遇等「なし」丁寧度「ぞんざい」態度「粗野」

オウムの留守番
クジャクの親父とおふくろと子供達が森の中に住んでいたぜ。
クジャクの親父は、食べ物を探すには、毎日、遠くに行つた
ぜ。
親父は、ある日暗くなっても、帰ってこなかったぜ。
おふくろは、親父を探すことにしたぜ。
おふくろが留守番をおとなりのオウムにたのんでいったぜ。
オウムは、鳴き真似が上手だぜ。
クジャクの子供達に動物の鳴き真似を色々聞かせたぜ。
子供達は、小さなくちばしをばくばくさせながら、動物の鳴
き真似を喜んだぜ。
オウムが猿を鳴き真似している時、一匹のヒヨウがあつちか
ら来たぜ。
ヒヨウは、クジャクの子供達の方に向かってくるぜ。
その時ライオンがウォー、ウォーとほえる声が出たぜ。
ヒヨウは、立止っちゃ、辺りを見回したぜ。
だが、ライオンは、何処にも来ないぜ。
またまた、ヒヨウは、クジャクたちの方に向かいまくった。
またまた、すると、ライオンの声ウォー、ウォー、ウォー
としたぜ。
ヒヨウは、ライオンの声にあわてて、ずらかっていったぜ。
クジャクの親父とおふくろと一緒に帰ってきたぜ。
クジャクの親父とおふくろが自分達の家の傍に来た時、ウォー、
ウォーとライオンの声が出たぜ。
親父とおふくろは、びっくりして、木の陰にかくれたぜ。
だが、親父とおふくろに子供達の事がすぐ心配になつたぜ。
もう、親父とおふくろがじっとすることもできないぜ。
夢中で、親父とおふくろと一緒に子供達のとこへ走っていつ
たぜ。
木の陰からオウムが首を出しちゃ、あの、おかえりと言つた
ぜ。

言い換え：

話し手「老人」待遇等「尊敬」丁寧度「丁寧」態度「なし」

鸚鵡の留守番
孔雀の父君と母君と子供達が森の中に棲んでいらっしゃいま
した。
孔雀の父君は、食べ物を探しなさいますのに、毎日遠くにい
らっしゃいました。
父君は、ある日御暗くなりましても、還っていらっしゃいま
せんでした。
母君は、父君を探すことにしました。
母君が留守番をお隣の鸚鵡に頼んでいきなさいました。
鸚鵡は、鳴き真似が御上手でいらっしゃいます。
孔雀の子供達に動物の鳴き真似を色々聞かせなさいました。
子供達は、小さなくちばしをばくばく為させながら、動物
の鳴き真似を慶びなさいました。

鸚鵡が猿を鳴き真似していらっしゃいます時、一匹の豹が彼方
からいらっしゃいました。

豹は、孔雀の子供達の方に向っていらっしゃいます。
其の時ライオンがウォー、ウォーと吠える声がありました。
豹は、立止りなさいまして、辺りを見回しなさいました。
ですがライオンは、どちらにもいらっしゃいません。
亦豹は、孔雀の方の方に向っていらっしゃいました。
亦そうするとライオンの声ウォー、ウォー、ウォーとしまし
た。
豹は、ライオンの声に慌てなさいまして、遁げていきなさいま
した。
孔雀の父君と母君と一緒に還っていらっしゃいました。
孔雀の父君と母君が自分方の御家の御側にいらっしゃいました
時、ウォー、ウォーとライオンの声がありました。
父君と母君は、吃驚なさいまして、樹の蔭に隠れなさいました。
ですが父君と母君に子供達の事がすぐ御心配になりました。
もう父君と母君がじっとすることもできません。
夢中で父君と母君と一緒に子供達の所へ走っていきなさいまし
た。
樹の蔭から鸚鵡が頭を出しなさいまして、あの、お帰りなさい
と謂いなさいました。

言い換え：

話し手「女性」待遇等「尊敬」丁寧度「丁寧」態度「なし」

オウムの留守番
クジャクの御父様と御母様と子供達が森の中に住んでいらっし
やいました。
クジャクの御父様は、食べ物を捜されますのに、毎日遠くにい
らっしゃいました。
御父様は、ある日御暗くなりましても、帰っていらっしゃいま
せんでした。
御母様は、御父様を捜すことにされました。
御母様が留守番をお隣のオウムに頼んでいかれました。
オウムは、鳴き真似が御上手でいらっしゃいます。
クジャクの子供達に動物の鳴き真似を色々聞かせられました。
子供達は、小さなくちばしをばくばく為させながら、動物の
鳴き真似を喜ばれました。
オウムが猿を鳴き真似していらっしゃいます時、一匹のヒヨウ
があちからいらっしゃいました。
ヒヨウは、クジャクの子供達の方に向かっていらっしゃいます。
その時ライオンがウォー、ウォーとほえる声が出ました。
ヒヨウは、立止られまして、辺りを見回されました。
ですがライオンは、どちらにもいらっしゃいません。
又ヒヨウは、クジャクの方の方に向っていらっしゃいました。
又そうするとライオンの声ウォー、ウォー、ウォーとしまし
た。
ヒヨウは、ライオンの声に慌てられまして、逃げていかれました
た。
クジャクの御父様と御母様が一緒に帰っていらっしゃいました。
クジャクの御父様と御母様が自分方の御家の御側にいらっしゃ
いました時、ウォー、ウォーとライオンの声が出ました。
御父様と御母様は、びっくりされまして、木の陰に隠れられま
した。
ですが御父様と御母様に子供達の事がすぐ御心配になりました。
もう御父様と御母様がじっとすることもできません。
夢中で御父様と御母様が一緒に子供達の所へ走っていかれました
た。
木の陰からオウムが首を出されまして、あの、お帰りなさいと
言われました。